

自由教育で始動する 童話世界

2026/10/2_金-18_日

【パネル展示】大迫で菅原隆太郎と宮沢賢治が出会ったことの意味を問う活動の3年間の成果をパネル展示します。

Support

後援 花巻市

大迫図書館

〒028-3203 岩手県花巻市大迫町大迫2-51-4(大迫総合支所内)



菅原 隆太郎



宮沢 賢治

【朗読会】賢治の童話世界を方言で朗読します。語り部を中心に岩手大学学生、地域の子ども達も参加し、賢治の世界を今に展開します。

朗読作品「十月の末」
「鹿踊りのはじまり」

朗読 早池峰賢治の会 語り部 高橋則子
解説 岩手大学 名誉教授 大野眞男

2026 10/10_土 10:00- 12:00

大迫交流活性化センター

〒028-3203 岩手県花巻市大迫町大迫3-161

参加/無料
定員/150名 先着順
申込先/090-7564-4966 (菅原隆太郎と宮沢賢治の会代表:平野守見)
hlokada@iwate-u.ac.jp (岩手大:岡田浩行)
当日参加でも大歓迎です。



新渡戸 稲造

2026 11/7_土 13:00- 15:00

【研究発表会】「近代岩手の教育文化において宮沢賢治を考える」賢治作品がよりどころとする地域の教育観や文化活動について、講師による報告発表を踏まえ、来場者で意見交流を行います。

イーハトーブ館

〒025-0014 岩手県花巻市高松1-1-1

参加/無料
定員/150名 先着順
申込先/090-7564-4966
(菅原隆太郎と宮沢賢治の会代表:平野守見)
hlokada@iwate-u.ac.jp (岩手大:岡田浩行)
当日参加でも大歓迎です。

講師:
岩手大学 田中成行
東北大学 小田桐睦弥
岩手大学 岡田浩行



佐藤 瑞彦

2026 年 11 月 7 日（土）

宮沢賢治イーハトーブ館

13:00～15:00（受付開始 12:30）

菅原隆太郎と宮沢賢治の会 研究発表会

「近代岩手の教育文化において宮沢賢治を考える」企画趣旨文

2026 年は、宮沢賢治生誕 130 年にあたっている。宮沢賢治を生前に知る人が少なくなる時代を迎え、今後の宮沢賢治研究ならびに賢治の業績の継承が模索されている。

宮沢賢治研究の動向を顧みると、宮沢賢治と花巻在住の人々との関係については、従来同時代関係者の証言をベースに浮き彫りにされてきた。一方で、宮沢賢治作品と教育や農業といった創作の基礎経験とも目される実践活動との関係を捉えるべく、同時代の教育・農事の諸事象を面として捉える研究が近年盛んに進められてきている。これら二つの研究の潮流は、岩手の教育・農事を風土の次元にまで還元して考えた時、一致するのではないだろうか。

本研究発表会では、特に教育事象に焦点をしぼり、まず基調講演において、宮沢賢治が岩手県立花巻農学校に勤めた 27 歳の時、地元の『岩手毎日新聞』に掲載した童話「やまなし」に描かれた子蟹の兄弟の成長や、「虔十公園林」に描かれた本当の賢さに、大正自由教育や世界の同時代に生まれた児童心理学・発達心理学者の考えとの重なり注目したい。

そのうえで、登壇者より教育風土を焦点化する事例を二点提案報告する。

まず大迫地区の教育者菅原隆太郎と宮沢賢治との出会いを、大正自由教育という同時代的コンテクストのなかに位置づけたい。自由教育は当時唯一の教育理念ではなく、多様な教育思想が併存していた。そのなかで両者が自由教育を志向した背景には、岩手において近代以降に形成されてきた教育的・思想的土壌が存在したのではないか。この点について、佐藤昌介や新渡戸稲造をはじめとする地域の知識人ネットワークや教育風土に着目し、宮沢賢治以前から形成されてきた岩手の教育文化との連続性という視点から検討したい。

さらに宮沢賢治作品と大正自由教育との関係について、岩手県内の同時代の動向を考慮に入れてその結節点を探りたい。大正自由教育の活動は、キリスト教の宗教教育や学校外の文化活動に横断するところがあった。教育者でもあった宮沢賢治の文学創作には、そうした教育の特質によって必然化されるところがあったのではないか。この点について、宮沢賢治とも面識のあった岩手県師範学校附属小学校教諭にして日本メソジスト盛岡教会日曜学校長であった佐藤瑞彦に着目する。佐藤瑞彦の口演童話や童話創作という教育活動の圏域の中で、宮沢賢治の諸作を捉えたい。

岩手花巻における教育文化の宮沢賢治へといたる連続性、岩手盛岡の教育文化のなかで宮沢賢治作品が現出する必然性を明らかにすることで、岩手の〈地域性〉の一端を明らかにできる。宮沢賢治（研究）の継承の課題解決には、そうした現在の読者サイドの自己言及が不可欠ではないか。本研究発表会の題目を「近代岩手の教育文化において宮沢賢治を考える」とする次第である。

当日は、当該研究領域の研究者、ならびに地域の歴史や宮沢賢治に興味関心を持つ市民の方々とともに、情報を共有し、かつ相互に意見交換をする開かれた場になれば幸いである。

菅原隆太郎と宮沢賢治の会